

小・中学校音楽研究部

I 研究主題

音楽表現を高めるための言語活動の充実

II 主題設定の理由

今年度、小・中学校音楽研究部では、「音楽表現を高めるための言語活動の充実」を研究主題とした。特に鑑賞の活動において感じ取ったことを言葉で表す・言葉で説明することを深めるとともに、それを活用して音楽表現を高める音楽科の学習について研究を進めることとした。

学習指導要領の中心的課題は、「確かな学力」を基盤とした思考力・判断力・表現力等の育成である。思考力・判断力・表現力等を確実に育むためには、基礎的・基本的な知識や技能の習得とともに、知識や技能を活用する学習活動を充実させることが大切である。そのため、体験から感じ取ったことを表現することや、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させるような言語活動を行う事が重要である。

音楽科での言語活動では、「このように表現したい」という音楽表現に対する思いや意図を言葉などで表現したり、鑑賞において「感じ取った音楽がどんな特徴なのか」「楽曲全体がどのように形づくられているのか」「自分のにとってこの楽曲の素敵なのところは何なのか」などを思考・判断しながら、言葉で表現したりする過程を大切にしていけることが重要である。しかし、手段である言語活動自体に時間を費やし、「音」を通して学ぶ音楽科の学習から離れてしまう場合が多い。

教師の発問や言葉がけを工夫したり、学習環境を整えたりすることで、音楽的特徴と関連させながら音楽を聴いたり、楽曲に対する思いや意図を児童生徒同士で深め、表現を高めたりすることができる授業を展開していきたいと考え、本主題を設定した。

III 研究の内容

○ 研究の方向性

音楽科の研究主題「音楽表現を高めるための言語活動の充実」をうけて、以下の方向性を立てた。

- ① 音楽に対する思いや、感じ取った楽曲の特徴やよさなどを伝え合うために、音楽における[共通事項]を意図的に教師の発問やめあてに取り入れ、児童生徒が音楽的な言葉を共有し、その言葉を用い、適切に活用できるようにする。
- ② 音楽に合わせてリズムを打ったり、指揮をしたりするような体を動かす活動や、聴き取ったり感じ取ったりしたことを図や絵などで表したりするなど、とらえた音楽的な特徴を可視化することで、言葉で表しやすくする。
- ③ 言語活動を通じて、他者の思いを知り、自分の考えを深め、さらに音楽を味わい深く聴くために音楽を聴く活動と、児童生徒同士で思いや感じたことを言葉で表す活動(言語活動)を繰り返し行うようにする。(言語活動と音楽を聴く活動の往還)

IV 実践例

実践例① 所沢市立美原小学校 第5学年の事例

1 題材名「いろいろな曲のひびきを味わおう」

2 本時

(1) 目標

- ・弦楽器の音色や旋律の重なり方の変化から感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

(2) 本時で主に扱う[共通事項] 音色、旋律、音の重なり

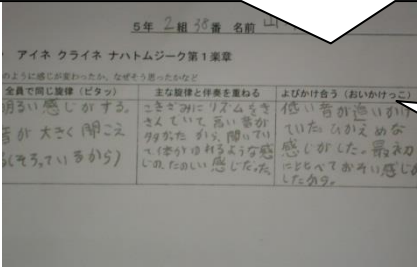
(3) 展開 (8 / 11時)

○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点 ◆評価方法【 】
・既習曲を演奏する。 ○弦楽器の音色や響きを感じ取って「アイネ クライネ ナハトムジーク第1楽章」を聴く。 ・冒頭を聴く。	「今から音楽をよく聴く勉強をします。どんな楽器で演奏されているか、どのような感じの音か気をつけて聴きましょう。」 ・めあてを明確にしてから聴くように促す。 ・冒頭の旋律を口ずさんでみる。
「いろいろな楽器の音が重なり合うひびきを味わいながら聴こう」	
・演奏している楽器（弦楽器）について知る。 ・弦楽器の音色や響きに気を付けて全曲を聴く。 板書による手立て [共通事項] 挙手やハンドサインによる鑑賞の手立て 可視化	・楽器の大きさや演奏の仕方、音の出し方や合奏の配置などにも触れる。 ・高い音と低い音のどちらがよく聴こえるか左右の手を使って表すように促す。 ◆弦楽器の音色や旋律の重なり方に興味・関心をもち、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く学習に意欲的に取り組んでいる。 【関 発言内容 表情観察】
<研究①・②> ・活動のめあてを明確にすることで、児童の活動が深まった。 ・鑑賞活動において、聴く活動に変化を付けることができた。 ・行動観察法を取り入れることで、児童の学習状況を見とることができた。	
○旋律の重なり方に気を付けて聴く。 ・いろいろな旋律の重なり方があることに気づく。 ・全員で同じ旋律を演奏しているところを聴き取る。 ・旋律の重なり方が変わったところを聴き取る。	「では今からこの曲の音の重なりを聴き取ってみましょう。」 ・「いつでもあの海は」の学習をふり返る。 ・冒頭の旋律を口ずさんでみる。 「例を手がかりに、旋律の重なり方が変わったところで手を挙げてみましょう。」



ワークシートの児童の反応例〈全員で同じ旋律〉

- ・高い音と低い音が混じって、力強い感じがした。
- ・強くて勇ましい感じ。像が行進しているよう。
- ・明るい感じがする。音が大きく聞こえる（そろっている）



ワークシートの児童の反応例〈主な旋律と伴奏を重ねる〉

- ・こきざみにリズムをきざんでいて、高い音が多かったから、聞いていて体が揺れるような楽しい感じがした。

＜研究③＞ワークシートに書いたことを発表し合い、友だちの思いを知り、自分の考えを深めさらに味わい深く聴こうとすることができた。

- ・どのように感じが変ったか、なぜそう思ったかなどをワークシートに記入するよう促す。
- ◆弦楽器の音色や旋律の重なり方の変化から感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

- ・それぞれの旋律の重なり方の違いによって感じ方が変わることに気付く。
- ・弦楽器の響きを味わいながら、楽曲全体を通して聴く。

＜研究③＞ワークシートに書いたことを発表し合い、友だちの思いを知り、自分の考えを深めさらに味わい深く聴こうとすることができた。

実践例② 所沢市立所沢小学校の5年生の事例

1 題材名 いろいろな音のひびきを味わおう

2 本時

(1) 目標

- ・弦楽器の音色や旋律の重なり方の変化から感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

(2) 本時で主に扱う【共通事項】 音色、旋律、音の重なり

(3) 展開 (9 / 11時)

○学習内容	・学習活動	・指導上の留意点	◆評価方法【 】
・既習曲を演奏する。 ○弦楽器の音色や響きを感じ取って「アイネ クライネ ナハトムジーク第1楽章」冒頭を聴く。		・「どんな楽器で演奏されているか気をつけて聴きましょう」 ・めあてを明確にしてから聴くように促す。 ・冒頭を口ずさんでみる。	
「いろいろな楽器の音が重なり合うひびきを味わいながら聴こう」			
・DVDを見て、演奏をしている楽器（弦楽器）について知る。 ・楽器の音色や響きに気をつけて前半を聴く。		・楽器の大きさや演奏の仕方、音の出し	

大きさによって音の高さも変わるんだな・・・

○旋律の重なり方について学ぶ。

○旋律の重なり方に気をつけて聴く。

短いフレーズを何度も聴いたり、DVDで演奏者の動きを確認したりして旋律の重なり方についてわかるように確認した。



色別のカードを提示し自分の思いを他者に伝える

＜研究①・②＞画用紙をあげることで、それぞれの児童の考えを可視化でき、聴いていくうちに考えが変わっていく様子もわかった。

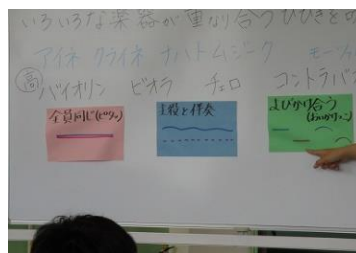
- ・それぞれの旋律の重なり方の違いによって感じ方が変わることに気付く。
- ・弦楽器の響きを味わいながら、楽曲全体を通して聴く。



方について知る。

- ・既習曲を手がかりにして「①全員同じ②主役と伴奏③よびかけ合うように演奏」という3つの旋律の重なり方があることを確認する。

「では今からこの曲の音の重なり方を聴き取ってみましょう。」



- ・旋律の重なり方が変わったところで3色の色画用紙をあげるようにする。

◆弦楽器の音色や旋律の重なり方に興味・関心を持ち、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く学習に意欲的に取り組んでいる。

【関 発言内容 表情観察】

- ・どのように感じかわったか、なぜそう思ったかなどワークシートに記入するよう促す。

◆弦楽器の音色や旋律の重なり方の変化から感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

【鑑 発言内容 ワークシート 行動観察】

＜研究③＞ワークシートに書いて発表することで友だちの思いを知り、自分の考えを深めてさらに味わい深く聴こうとすることができた。

実践例③ 所沢市立南小学校 第4学年の事例

1 題材名「せんりつの重なりを感じ取ろう」

2 本時

(1) 目標

- ・旋律が重なり合うよさを感じとって聴く活動に関心を持ち、進んで取り組むことができるようにする。
- ・2つの旋律が重なり合う面白さやよさを感じ取って聴く。

(2) 本時で扱う【共通事項】 反復、問いと答え、音の重なり

(3) 展開 (3/8時)

○学習内容 ・学習活動	○主発問 ◆評価規準【評価方法】
「2つのせんりつのかけ合いや重なり合うよさを感じ取ろう」 ○2つの旋律の掛け合い、重なりに気を付けて聴く。 	○『王の行進』が出てきたら手拍子、『馬のダンス』が出てきたら指打ちをしよう。」
<研究①>・身体を動かしながら音楽を聴くことにより、個々の児童が2つの旋律のどちらが演奏されているのかを自分で確認しながら聴くことができた。 ・音が強く感じたところは強く手を叩く児童も見られ、曲が進むにつれ、同じ旋律でも強さが変化していることを児童が自ら感じ取ることができた。	
 ○2つの旋律の繰り返し、掛け合い、重なりを知る。	・身体を動かして聴くことにより、「王の行進」と「馬のダンス」がどのように繰り返されているのかを体感させるようにする。 ○「2つの旋律はどのような順番で出てきますか。」 ・2つの旋律の繰り返し（反復）や掛け合い（問いと答え）、重なりを鑑賞し、視覚的に捉えられるようにする。

○「ファランドール」を紹介する文を作る。	＜研究②＞児童が聴き取ったことを板書する際に、【共通事項】を提示しながらまとめることによって曲の構造を視覚的に捉えることができ、板書を見ることで今どの部分を聴いているのか児童が見通しをもって聴くことができた。 ○「ファランドールのおすすめのところを書いてみよう。」 ◆旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。 【行動観察・発言内容・ワークシート】 ＜研究③＞聴いて感じ取ったことを近くの友達やクラス全体で話し合うことにより、どの児童も2つの旋律の繰り返し、掛け合い、重なり合うよさを自分なりにまとめることができた。
--	--

実践例④ 所沢市立北中小学校 第3学年の事例

1 題材名「せんりつの重なりを感じ取ろう」

2 本時

(1) 目標

・旋律が変化する面白さやよさを感じ取る。

(2) 本時で主に扱う【共通事項】 旋律、変化（強弱、速さ、長調・短調）、くり返し、重なり

(3) 展開（3／6時）

○学習内容 ・学習活動	○主発問 ◆評価規準 【評価方法】
○前時に学習した「ファランドール」の旋律を思い出し、演奏映像を見て関心を高める。 ・DVDを見る。 ○『王の行進』の旋律の変化と二つの旋律の出てくる順を思い出す。 ・『王の行進』は右手でゲー、『馬のダンス』は左手でパーを出したり指揮をしたりしながら聴く。 ○学習のめあてを確認する。 『ファランドール』の2つのせんりつの変身するひみつを見つけよう」	○2つの主な旋律がどんな楽器で演奏されているか見てみましょう。 あんなにたくさんの楽器を使っているんだ ＜研究②＞旋律の変わり目を身体表現することで可視化でき、お互いに確認できた。 ＜研究①＞共通事項をめあてに取り入れ、課題を明確にできた。

○『王の行進』と『馬のダンス』の二つの旋律の変化に気を付けて聴く。
 (1) ②の区切りを聴く。
 (2) ③の区切りを聴く。
 ・身体表現(指揮など)をしながら聴き、変化や違いを発表する。

○変身するひみつってなんだろう。
 ①の区切りのひみつは、おいかけてこだったね。
 ひみつは、もとの**旋律が変化して出てくるもの**なんだね。

○どんなひみつが見つかったかな。

教材の工夫

- ・①から③の区切りごとの音源を編集し、くり返し聴けるようにした。違いを聴き比べるときにスムーズに進めることができた。



〈研究③〉旋律の変身するひみつを発表する場を設け、もう一度聴いて確かめることで、音楽を聴く学習を深めることができた。

・ワークシートに旋律のひみつとおもしろさをまとめる。



○ひみつが変わったことによって感じたこともかわったかな？

〈研究③〉前時の『王の行進』と同じかどうか考えさせた。
 旋律が変化することによって生まれる良さを共有した。

◆旋律の変化に気づき、重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら聴いている。

【鑑② 行動観察・発言聴取・ワークシート】

〈研究①〉自力解決が困難な児童には、話型を示し、好きなひみつ[共通事項]はどこかを尋ね、児童の思考を支援した。

《話型》 が好きです。
 なぜなら、 だからです。

〈研究①〉音楽を聴くときに、ポイントを明確にすることで、音楽の特徴に気づきやすくなることができた。旋律の変化が音楽の面白さや良さが結びついていることを味わうことができた。

実践例⑤ 所沢市立小手指中学校 第1学年の事例

1 題材名「詩の内容と曲想の変化との関わりを感じ取ろう」

2 本時

(1) 目標

- ・「魔王」の音楽を形づくっている強弱、旋律（音の高低）、音色、リズム、テンポ（速度）、和音（長調、短調）など、人物ごとの音楽的な要素の表現や変化を知覚し、曲想の変化や雰囲気を感じ取る。

(2) 本時で主に扱う[共通事項] 強弱、旋律、音色、リズム、和音

(3) 展開（2／3時）

学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆具体的評価規準												
「登場人物の心情の変化を感じ取ろう」 ○『魔王』の登場人物の各部分を聴き比べ、声の音色、旋律、（音の高さ）、強弱の変化を知覚・感受し、周りの生徒と意見交換させる。 ○『魔王』の登場人物ごとの部分を取り出し編集したCDを繰り返し鑑賞させる。 ・子の部分を3回鑑賞する。 マイン ファーター Mein Vater ・魔王の部分を3回鑑賞する。 イッヒ リーベ ディッヒ Ich liebe dich ・父の部分を2回鑑賞する。 マイン ソーhn Mein Sohn ・ナレーターの部分を2回鑑賞する。 ・ピアノ伴奏について意見を述べさせる。三連符について説明する。 ○DVDを鑑賞し、イメージをふくらませる。 [共通事項] 音楽的な要素について確認しながら、進める。 	○はじめに音楽的な要素を説明し、音楽的な変化から登場人物の心情の変化を探るよう指示する。 生徒自身が音楽的な要素を知覚できるように繰り返し鑑賞させる。 ○ワークシートに記入させる。 ワークシート記入例 <table border="1" data-bbox="788 1072 1302 1615"> <thead> <tr> <th>登場人物</th><th>音楽的な特徴</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子ども</td><td>p < mf < f < ff だんだん大きくなる。 助けを求めている。</td></tr> <tr> <td>魔 王</td><td>はじめはp誘惑している感じ。 最後にf正体を現す</td></tr> <tr> <td>父</td><td>低い音、はじめは落ち着いているが、最後はf心配している。</td></tr> <tr> <td>語り手</td><td>後半はだんだん速くなり、最後はゆっくり。</td></tr> <tr> <td>ピアノの変化</td><td>暗く激しい感じ。途中で明るくなる。</td></tr> </tbody> </table> ○音楽的な変化と登場人物の心情の変化について確認させる。 ○周りの生徒と意見交換させ、考えを深めさせる。 ◆音楽的な要素の変化を知覚している。 【ワークシート】	登場人物	音楽的な特徴	子ども	p < mf < f < ff だんだん大きくなる。 助けを求めている。	魔 王	はじめはp誘惑している感じ。 最後にf正体を現す	父	低い音、はじめは落ち着いているが、最後はf心配している。	語り手	後半はだんだん速くなり、最後はゆっくり。	ピアノの変化	暗く激しい感じ。途中で明るくなる。
登場人物	音楽的な特徴												
子ども	p < mf < f < ff だんだん大きくなる。 助けを求めている。												
魔 王	はじめはp誘惑している感じ。 最後にf正体を現す												
父	低い音、はじめは落ち着いているが、最後はf心配している。												
語り手	後半はだんだん速くなり、最後はゆっくり。												
ピアノの変化	暗く激しい感じ。途中で明るくなる。												

3 次時

(1) 目標

- ・「魔王」の音楽を形づくっている人物ごとの音楽的な要素の変化を知覚し、曲想の変化や雰囲気を感じ取る。

(2) 次時で主に扱う[共通事項] 強弱、旋律、音色、リズム、和音

(3) 展開 (3 / 3 時)

学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆具体の評価規準
「登場人物の心情の変化を感じ取ろう」 ○班に分かれて、日本語で『魔王』を発表することを伝え、4人の登場人物を分担する。 ○表現の練習をする。 魔王は、始めはPだから、誘惑しているようにやさしい感じだね。  ○班ごとに『魔王』の発表を行う。  魔王役の生徒が曲想の変化に合わせて表現の工夫を楽しんでいた。	○自分の好きな役や、興味のある役を選ぶように促す。 また、班で協力できるように配役を調整する。 (語り手は前後2人。魔王も2人で分けるなど) ○登場人物の音楽的特徴を生かして表現するように伝える。 ◆登場人物ごとの音楽的特徴である、強弱の変化や声の高さの変化について工夫している。 【観察】 ○表現についてお互いに意見を述べ合うよう指示する。表現が豊かになるよう工夫させる ○音楽的な表現や心情的な変化を表現していた生徒について、教師が表現の工夫を評価する。 ◆音楽的な特徴を踏まえて心情的な変化を表現している。 【観察】 <研究③>友だちの発表を聴き、強弱の表現をより強調して表現することができた。

V ま と め

今年度、音楽科研究部では、主に「鑑賞活動」で音楽表現を高めるための言語活動の充実を図るために、①〔共通事項〕の共有・活用②〔共通事項〕の可視化③音楽を聴く活動と言語活動の往還に重点をおいて研究を進めてきた。

< 成果 >

- ① 音楽的な言葉〔共通事項〕を共有し、その言葉を用いて適切に活用できるようにすること。
 - ・教師の発問やめあてに〔共通事項〕を意図的に取り入れて授業をすることにより、児童生徒が発表する時にもその〔共通事項〕を活用して発言する様子が見られるようになった。
 - ・ワークシートなどにも〔共通事項〕を入れて課題を設定することにより、記入する児童生徒も、〔共通事項〕を活用して書けるようになってきた。
- ② 音楽を形づくっている要素〔共通事項〕を可視化することにより言葉で表しやすくすること。
 - ・指揮などの音楽に合わせて体を動かす活動を行うことにより、児童生徒が鑑賞する時に変化をもたせることができ、繰り返し鑑賞できるので音楽量が増えた。
 - ・児童生徒が体を動かしながら聴くことによって、音楽を体感することができ、自分の発言に根拠をもたせることができた。
 - ・板書を工夫することにより、目で見てわかり、先の見通しがより立ちやすくなるため、可視化も行いやすくなった。
 - ・音楽は音を中心に活動するため、音楽を遮らないためにも目を取り入れられる情報の活用が工夫が大切であることがわかった。
- ③ 児童生徒同士で思いや感じたことを言葉で表す活動（言語活動）とより深く音楽を聴く活動を繰り返し行うようにすること。
 - ・可視化を重ねていくことによって、言語活動と音楽を聴く活動の往還につながり、多様な評価ができるようになった。
 - ・言語活動の形態を工夫することによって、言語活動そのものに時間を取られることが少なくなってきた。

< 課題 >

- ① 〔共通事項〕を柱にすることで授業を進めやすくなったが、詰め込みすぎたり、とらわれすぎたりすると児童生徒の自由な発想の妨げとなることもあるため、〔共通事項〕を精選して授業を組み立てるように努めていきたい。
- ② 児童生徒に発言させる時間（言語活動）と可視化させる・鑑賞する時間（音楽を聴く活動）のバランスを工夫し、音楽量を確保した授業を組み立てていきたい。